

# シリーズ 第81回 人権



## 通じ合うところ

私が初めて外国人と接したのは、小学校6年生の時、野球で中部地方の代表として選抜チームに選ばれた時でした。そのチームの中に外国人のAさんがいました。私は最初、Aさんの肌の色や体の大きさの違いに圧倒され、怖さを感じたのを覚えています。そのせいで、仲良くできるのか、言葉は通じるのか、あまり話し掛けられない方がいいのか、そんなことばかり考えて声も掛けられずにいました。

そんな折、練習で4チームに分かれてリレーをすることになりました。私のチームにはAさんがいて、Aさんはアンカーになりました。レースが進み、Aさんは3位でバトンを受け取りました。しかし、Aさんはそこから前の2人を抜き去り、1位でゴールしたのです。私は逆転勝利に興奮し、無意識にAさんにハイタッチを求めています。同時に、Aさんは心からハイタッチを返してくれるのかという不安に襲われました。しかし、Aさんは温かい笑顔で私のハイタッチに応じてくれました。その時、Aさんに対して一方的に抱いていた怖さや不安が一気に吹き飛びました。

それからは、小さい時に日本に来たこと、日本のプロ野球を見て野球を始めたことなどいろいろな話をするようになりました。中でも印象に残っているのが、「日本人は温かい」と言ってくれたことです。Aさんの言葉でお互いに感じ始めていた気持ちが同じだと分かって、心が通じ合ったように思い、とてもうれしかったことを覚えています。この時から、私の中で外国

人に対する抵抗がなくなったように思います。

今はグローバル化が進んでいます。その一方で、子どもたちの中で「外国人」ということを理由に、彼らを仲間外れにすることがあると聞きます。そのような子どもたちの姿は、私のAさんに対する初めの態度と近いものがあるのではと思います。私たちは外見などから、勝手な思い込みでその人自身のイメージを作り上げ判断してはいないでしょうか。

人は誰もが一人の人間として尊重されなければならないと思います。私にこのことを気付かせてくれるきっかけとなったのはAさんの温かい笑顔でした。今度は私が誰に対しても同じような笑顔を送れるようになりたいと思います。その笑顔が人に温かい風を吹かせると信じて。

(20代・男性)

## 人権豆知識

### 知っていますか？ 部落差別解消推進法

現在もなお部落差別は存在し、これを解消することは重要な課題です。このような現状を受けて、平成28年12月に、部落差別のない社会の実現を目的とした部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)が施行されました。

私たち一人一人が正しい認識を持ち、誰もが尊重される社会を築いていきましょう。